

# 地質ニュース

昭和50年10月

第254号

1975

解説	石炭資源の高度化利用	石炭地質研究グループ	1
	川崎における異常地盤隆起の原因を探る	岸永井 和男	22
トピックス	流出重油の漂跡と海底堆積物	大嶋 和雄 小野寺 公晃 有田 正史	32
	磯浜 ISOHAMA		21
国際会議	CCOP同位体年代測定セミナーに出席して	柴田 賢	42
	陸棚海底下の金属・非金属鉱床	岸本文 男	50
	書庫からの便り ⑮	資料室	55
	学会掲示板		49

## 編集 地質調査所

### 表紙の写真

発行 株式会社 実業公報社

### 傾斜不整合

長年野外の地質調査をしてきたが、不整合に出会うこと自体まれなことである。そのうえこの写真にみられるような見事な傾斜不整合に、さらに下位層が逆転しているという典型的なものは初めてである。筆者は昭和49年3月宮崎県日南海岸を調査中、25~30°の緩傾斜に逆転している日南層群(漸新世—中新世初期)の上に、宮崎層群(中新世後期)が著しい傾斜不整合で覆うきわめて珍しい露頭を見出した。この日南層群が逆転しているという根拠は、写真の露頭およびこの付近に露出する互層中の砂岩単層中に見出される堆積構造(sole mark・grading・ripple cross lamination・convolute lamination・dish structureなど)の形が正常でなく、逆の形で観察されることから実証された。

写真は宮崎県那珂郡南郷町博奕浦で、南郷駅南東1,800mの海岸の露頭である。日南層群の走向傾斜はN40°E 20~30°NE; N10°W 30°Wでいずれも緩傾斜に逆転している。一方宮崎層群はNS 20°Eであり、両層群の走向傾斜には著しい相異がある。なお詳しいことは地質調査所月報 第26巻 第11号(演旨)を参照。

(長浜春夫)